

「今できる事を実践する」

「～コロナ禍の今だからこそ“気づき”“考え”“実行する”～」

コロナ禍だからこそ「できることからまずやってみる」

玉村町立南中学校 校長 増田 眞次

玉村町における「佐波地区JRCリーダーシップトレーニングセンター」は今年で7年目を迎えました。小学校5校、中学校2校の異校種による開催が特徴で、リーダーとしての在り方や防災教育、いじめ等の課題についてディスカッションしながら自分の考えを広げたり、深めたりしています。今年はコロナ禍ということもあり、日赤群馬県支部とリモートによる開催としました。コロナ禍だからこそ「できることからまずはやってみる」という発想で開催に至りました。

一つだけの命

玉村町立玉村小学校 6年 町田 華梨

この防災学習を通し、自分の少しの油断が自分や家族の命の危険につながる事を学びました。また、過去の自分と重ねて学ぶこともでき、防災についてもっと深く考えようと思いました。この防災学習の中で特に印象的だったのが、もしもの時の準備についてです。大丈夫だと思っていても、しっかり点検していないと、いざという時に困るということを知りました。これから自分の家の防災について考え、足りないものは何かをしっかりと確認したいと思います。また、いざという時は冷静な判断をし、出来るだけ早くひなをして、失ったらもどらない一つだけの大切な命を守れるようになりたいです。日常にも危険はたくさんひそんでいて、どこが危険でどこが安全かをしっかりとあくする事が大切だと思います。

最後に、玉村小の最上級生として、リーダーとして、正しい知識を学んでいきたいです。そして、今回の町トレセンで学んだ事をいかに、伝えていけるかをよく考えて実行し、今よりもよりよい学校になるように努めていきたいと思っています。

玉村町トレセン「リーダーとは」

玉村町立南中学校 3年 真尾 元基

今回の「リーダーシップ・トレーニング・センター」の防災プログラムやいじめについて考える活動を通して、たくさんの方の事を考え、学ぶことができました。玉村町では小学校と中学校が合同でトレセンをかいさいしています。僕が一番感じたことは、小学生の発言力についてです。先生が出す質問について、真剣に考え、そして自分の考えを積極的に発言する様子は中学生では見られない、小学生の良さだと感じました。次に感じた事は意見を引き出す難しさです。今回のトレセンの中では、中学生1人と小学生3人でグループを組み、日常の場面について話し合うワークがありました。しかし、話題について考えている時に何も話さない静かな時間が出来てしまい、この時間をなくす事がとても難しかったです。しかし、そのような場面では質問を変えるなどのたくさんの工夫ができたので良い経験になりました。今回のトレセンの最後に「自分にとってのリーダーとは何か。」という質問をされました。その質問をあらためて考えてみると、僕はリーダーに正解はないと感じました。

これからは自分の考えるリーダーを目指し、今回のトレセンで感じた事や学んだ事を学校の活動に活用していきたいと思っています。



防災教室～コロナ禍でも命を守る為に～

館林市立第三小学校 校長 中村美江子

6年生2学級の児童がオンライン防災教室を体験しました。コロナ禍であっても災害発生を止めることはできませんので、感染を防止しながら体験できる防災教室の有効性を実感しました。今回の学習を通して命を守る行動への児童の意識が高まり、日常生活や避難訓練で学んだことを生かしてみたいという感想もありました。貴重な機会を与えてくださった日本赤十字社群馬県支部の皆様に関心より感謝申し上げます。

災害から身を守ることを学んで

館林市立第三小学校 6年 井出 莉緒

私は、青少年赤十字の防災教室で学んで、身についたことが三つあります。一つ目は、地震の時の身の守り方です。机の下に入って身を守ることを学ぶことができました。ていねいに教えていただき、改めて大切なことだと分かりました。

二つ目は、普段から意識する習慣が付いたことです。災害から身を守るための知識が身につけられただけでなく、地震の時に危険なところはどこか、普段から気をつけるようになりました。

三つ目は、命を守る意識です。今までは、「命を守る」ということまで考えてはいませんでした。今回防災教室で学んだことで、「自分で自分の身を守るようにしなければ。」と考えるようになりました。自分たちで命を守ることの大切さを学ぶことができました。

このように、防災教室ではたくさんのことを学びました。もし地震が起きてしまったときは、上から落ちてくるものや、割れたガラスに気をつけて安全に避難できるようにしたいです。これからも学んだことを忘れず大切に、行動していきたいと思っています。



防災教室で学んだこと

館林市立第三小学校 6年 豊田 遥希

青少年赤十字の防災教室では、地震が起きたときの危険な場所について学ぶことができました。そして、学校での避難訓練の時に、「ここを通れば安心かな。」と考えるようになり、安全な避難経路を考えて避難することができました。また、登下校中には、地震が起こったとき何に気をつければよいか考えました。ぼくは登校時の班長なので、下級生の面倒を見ながら安全に避難できるようにしたいと思っています。そのほか、普段の生活でも「地震が起きたら危険な場所はないか」など、意識しながら過ごすようになりました。このように、防災教室で学んだことで、普段から危険な場所はないか確認し、地震が起きたときも冷静に行動することが大切だと気付くことができました。

防災教室の後、災害時の避難について家族で話し合いました。家の近くの避難所を確認したり、防災バックの中身を確認したり、改めて備えの大切さに気付きました。防災教室で学んだことを忘れず、これからも自分の命を守るように行動していきたいと思っています。

小学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

育つ自主性

【前橋市立石井小学校】……………

本校では代表委員会を中心として、児童の自主性を重んじながら活動しています。本年度は新型コロナウイルスの影響でできませんでしたが、登録式は、体育館で行い、代表児童がちかいの言葉を宣言し、その他の児童は復唱します。そうすることでJRC活動に自主的に取り組めるように意識付けをします。本校では赤い羽根募金、書き損じはがきの回収、さらにたてわり活動もJRC活動の一環として位置づけ、高学年を中心に自主的に活動しています。



やつかの子プロジェクト

【高崎市立多胡小学校】……………

本校では、「やさしい子 つよい子 かしこい子」の育成を目指し、募金活動、書き損じはがきの回収、あいさつ運動、シトラスリボン運動などを各委員会が中心となって行っています。その中の1つ、シトラスリボン運動は、保健委員会を中心に取り組みました。1人1つずつリボンを作り、差別や偏見のない学校を目指して全校児童が身につけています。シトラスリボンの活動をすることで、地域や学校が協力し、正しい判断ができ、思いやりのある子が育っています。



全校で取り組むJRC活動

【太田市立木崎小学校】……………

本校では、全児童がJRCに登録し、全校で「気づき・考え・行動する」というJRCの行動目標達成を目指して活動しています。JRC委員会が行う「毎月のアルミ缶回収」「赤い羽根募金活動」「書き損じはがきの回収」、児童会が行う「登校時あいさつ運動」「スマイルハートキャンペーン」等に取り組んでいます。大イチョウの「落ち葉清掃」には、多くの児童がボランティアで参加します。これらの活動を通して、温かな心や助け合いの精神を育んでいます。



『大北笑』を目指して

【みどり市立大間々北小学校】……………

本校では、児童会スローガンをもとに、笑顔あふれる学校や地域になるよう、各委員会の中で、何が必要か「気づき」、どうすればよいか「考え」、「実行」して、様々な活動に取り組んでいます。

たてわり活動や北小まつり、あいさつ運動、募金活動、クリーン作戦、学校パトロール、音楽集会、体育用具の整理、花壇の整備、読み聞かせなど、活動は多岐に渡ります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、縮小したり、中止したりする活動もありますが、今後も「大北笑」のために頑張っていきたいと思います。



地域に根ざしたJRC活動

【長野原町立中央小学校】……………

本校では、「みんな仲良く 思いやりの心をもってすごせる中央小」をなかよしスローガンとし、様々な活動を行っています。活動の一つに、赤い羽根募金があります。毎年、年末の一定期間、児童会の運営委員の児童が全校に募金を呼びかけます。児童や先生方が全面的に協力します。集められた募金は、児童の代表が町役場に行き、直接、町長にお渡しします。このような活動を通して、思いやりの心を持ち、地域に貢献できる児童が育っています。



新治小学校のJRC活動

【みなかみ町立新治小学校】……………

本校では、児童会を中心に活動に取り組みました。12月の人権週間では、助け合いの輪を学校外に広げて赤い羽根募金を実施しました。また、自分からあいさつができる児童が少ないことに気づき、登下校時に当番を決めてあいさつをすることの気持ちよさを実感できると良いと考えました。そして、率先してあいさつをはじめ、日頃からあいさつができるように意識して実行しました。このような活動を通して、他者を思いやる気持ちが育ってきていると感じます。



中学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

地域との交流活動

【伊勢崎市立宮郷中学校】……………

本校では、朝の登校時刻に行う地域のあいさつ運動に、年3回（6月、10月、2月）、生徒が主体的に参加しています。また、園芸委員を中心に、年2回（6月、11月）、地域の方と一緒に宮郷公民館で花植え活動を行っています。これらの交流活動を通して、地域の方々とのつながりを深め、活気のある安心で安全な地域づくりに努めています。今後も生徒の主体的な活動で、地域とともにある学校を目指していきます。



誰かのために活動できる生徒の育成を目指して

【太田市立生品中学校】……………

本校では、生徒全員がJRCの一員であるという意識をもって活動しています。全校での取り組みとして、赤い羽根募金への積極的な参加や生徒会とコラボして資源回収を生徒が中心となって主体的に取り組んでいます。JRC委員会では、校内の消毒活動・公務員さんのお手伝いで校庭の落ち葉拾いなどを行っています。本年度から学校全体でエコキャップ回収運動にも取り組んでいます。このような活動を通して、小さな活動だが様々なところで誰かの助けになっていることに気づける生徒を育てています。



愛の学園プロジェクト

【沼田市立沼田南中学校】……………

本校では、生徒会本部役員を中心に、「愛の学園プロジェクト」という活動を続けています。今年度は、あいさつ運動や地域のごみ拾い、保護者も一緒に、学校の中の清掃や周辺の草刈りなどのボランティア活動も行うことができました。「愛のくるくるリサイクル運動」というリサイクル活動では、アルミ缶などの資源を回収し、その収益で車椅子を購入し福祉関係施設に寄贈することができました。生徒同士が思いやりをもって支え合う気持ちが育っています。



小さな力も、合わせれば大きな力に

【藤岡市立小野中学校】……………

本校は、JRCユネスコ委員会がリサイクル活動や募金活動等のボランティア活動を企画運営し、全校体制で取り組んでいます。リサイクル活動は、「アルミ缶を車椅子に、ペットボトルキャップをポリオワクチンに、牛乳パックやプルタブをアジアの子どもたちの学校に」を合い言葉に全員参加で頑張っています。特にアルミ缶回収では、長年の功績が認められ、アルミ缶リサイクル協会から表彰していただきました。これからも、地域や世界のために自分たちのできることを続けていきたいです。



委員会活動として全校で意識

【甘楽町立甘楽中学校】……………

本校は統合により開校して6年目になります。学校基本目標に「自立し共生できる人づくりをめざす」を掲げ、生徒会専門委員会の中に「奉仕委員会」を持ち、委員会の時間を中心に日常的なボランティア活動や募金活動を進めています。ボランティア活動は学校周辺の清掃活動を主に取り組んでいます。ボランティア活動の生徒の声は学校通信で生徒や保護者・地域へ伝えていきます。地域と生徒の思いが一つになって互いに価値のある、継続した活動になるように取り組んでいます。



農園活動で育てる喜びを

【大泉町立南中学校】……………

本校のJRC委員会は、JRC新聞の発行や花いっぱい運動、通学路クリーン作戦、募金活動等に取り組んでいます。特に、今年度は、花いっぱい運動の一環で苗を購入し、環境委員や特別支援学級での実習作業を中心に農園活動に取り組みました。収穫を楽しみにしながら、汗と土にまみれて笑顔で除草作業にも取り組みました。キュウリやナスなど野菜を育てる活動を通して、環境への意識を高めることができました。今後は、全校で取り組み、収穫した野菜を家庭科の調理実習等で活用していきたいと考えています。



高等学校等 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

哲学カフェ、自治会とのボランティア活動を通して ～自ら気づき考え行動していく～

【群馬県立前橋清陵高等学校】……………

JRC部は令和元年度からスタートし、キャップ回収や募金などの活動を行っています。本校では自ら気づくことの大切さ、人と関わることの重要性、地域の中の学校という視点から自治会と清掃活動などを実施したり、環境や人権について考える哲学カフェを実施しています。昨年度は癌などで髪の毛を失った人の帽子作成の毛糸を寄付しました。今年度は差別や偏見の防止に向けたシトラスリボンの作成やSDGs啓蒙活動を行っています。これから身近なところから気づき、考え、活かし、いてこうと考えています。



自分たちにできること

【群馬県立太田高等学校】……………

本校のJRC部は、3年生3名、2年生1名の計4名での活動を行ってきました。本来ならば、ボトルキャップ回収、献血活動・PR、保育園・老人ホームへの訪問などを行っていましたが、この新型コロナウイルスで校外での活動はほとんど制限されました。そこで校内の活動に目を向け、学校の景観のために花壇を設置することにしました。また、高校生JRCのオンライン交流会に参加し他校との情報交換を行いました。自分たちにできることは身の回りにたくさんあるのだと改めて感じることができました。



自分たちに出来ることを考えて

【群馬県立大泉高等学校】……………

本校JRC部は3年生4名、2年生2名の計6名で活動しています。主な活動内容は、ボランティア活動や清掃活動・募金活動などを行っています。今年は新型コロナウイルスの影響で、子ども食堂のボランティアなどの校外で行われてきたボランティア活動がなかなかできなかったため、校内で出来る活動を行ってきました。具体的には校内の清掃活動や災害時の備えを調べたり、環境問題を考えたりなどです。また、新型コロナウイルス対策のポスターを作成し「手洗い・うがい」の大切さを呼びかけたりしました。

今後も学校内での活動経験をいかして、校外のいろいろなボランティア活動にも参加していきたいと考えています。



令和3年度利根商業高校JRC活動について

【利根沼田学校組合立利根商業高等学校】……………

新型コロナウイルス感染症の拡大により、昨年度に引き続き本校目玉行事である「利根商モール」での地域の特産物の販売ができませんでした。ボランティア活動も校内での実施を余儀なくされましたが、コンタクトレンズケースやペットボトルキャップの回収、防災意識の向上や防災対策の理解を促す防災活動に関する発表を行いました。今後は、トンガ沖大規模噴火・津波に係る募金活動を行う予定です。来年度こそ、他校との交流をはじめ校外における活動を充実させたいという生徒たちの思いを叶えさせてあげたいものです。



SNSに頼らない人間関係づくり

【群馬県立高崎高等特別支援学校】……………

本校では、毎年夏休みに学年やクラス、クラブの垣根を越えた交流として、生徒がレクリエーションの企画を考え、準備や片付け、運営等の実践を通して人間関係づくりを学びます。今年度は、スマイルボウリングや豆つかみ、神経衰弱など、様々なオリジナルゲームを考え、グループごとに競い合い、楽しみました。

人と関わることの楽しさや協力し合うことの大切さを実感することができ、コミュニケーション力を高める機会となっています。



国際社会に通じる社会活動を目指して

【BEA International school】……………

私たちの施設は英語で保育をするインターナショナルスクールで、県内で唯一、未就学児の学校で赤十字に加盟させて頂き10年が経ちました。コロナが始まる以前は、青少年赤十字の海外留学生の通訳をする事が多く、交流を通して言葉を伝えるお手伝いをさせていただきました。また、幼児向けに、災害時の炊き出し用のご飯を炊く体験をし、子どもたちはビニール袋でお米が炊ける事に驚いていて、とても貴重な経験になりました。現在はクリスマスに募金を行うなど、今できる活動をしながらい日も早いコロナ収束を願っています。



「高校生協議会等の活動について」

令和3年度 群馬県青少年赤十字 高校生協議会総会について

前橋育英高校 2年 寺島 梓

令和3年度高校生協議会総会は、新型コロナウイルスの影響により、令和3年5月15日（土）にオンライン開催となりました。役員同士の接触もリスクを伴うため、自宅からzoomを使用して参加しました。

前半は、青少年赤十字の活動報告と行事報告等を、支部の方がプレゼンデータを共有し、担当の役員がオンライン上で説明、発表をしました。回線の遅延などでタイミングがずれる時もあったので、オンライン上で連携をとることの難しさを痛感しました。

後半は、役員企画の献血についての寸劇をしました。この寸劇は、献血をするときの一通りの流れをお話することで、オンラインならではの人のやりとりを活かすことができ、伝わりやすかったと思います。

オンライン開催になってしまったことで戸惑うこともありましたが、各々が協力して、参加者にも満足してもらえるような会になったと思います。



高校生トレーニング・プログラム に参加して

太田市立太田高等学校 1年 林かんせい

今年度はコロナウィルス感染症拡大の影響で、例年のトレーニング・センターの代わりにトレーニング・プログラムが行われました。内容としては、先輩の体験談などを聞いて、青少年赤十字について理解を深めるとともに、活動を行う側の視点から赤十字の仕事を知ることができました。また、健康生活支援講習では、フレイル予防体操を行い、簡単な運動を行いました。このトレーニング・プログラムで学んだことをこれからの活動に活かしていきたいと思います。



ワークショップ発表会に参加して

群馬県立前橋西高等学校 2年 茂木 亜弥

昨年12月11日（土）に群馬県社会福祉総合センターで群馬県青少年赤十字高等学校ワークショップ発表会がありました。各校の学校紹介と本年度の活動について発表しました。コロナが流行ってからリモートで集まることが多かったので、直接集まるということはとても新鮮に感じました。他校の発表を聞いて、コロナ禍でも自分達は何ができるかを改めて考えることができました。

ワークショップでの経験を基に新たな活動を考えたいと思っています。



専門部大会に参加して

太田市立太田高等学校 1年 三木 梨乃

コロナ禍により、総文祭(専門部交流会)はリモートで行われました。実技講習は「災害時にできる支援」「救急法」でした。

「災害時にできる支援」では、被災者へのケア方法、布製リュックやチラシを使ったゴミ箱の作り方などを教えていただき、講師の方と共に作製しました。

「救急法」では、どこの家庭にもある材料(布、新聞、ダンボール、ビニール袋)を使って行う止血法や骨折の応急手当の仕方を学ぶことができたので、緊急時に活かせるようにしていきたいです。



群馬県総合文化祭実行委員を経験して

群馬県立前橋西高等学校 1年 兵藤 爽来

今年度は総文祭初の試みとしてオンライン形式での開催でした。インタビュー形式で専門部会長に活動内容を発表していただきました。新型コロナウイルスの影響により、実行委員全員が思うような活動ができず切羽詰まったところもありました。しかしたくさんの方々のご協力とご支援のおかげで成功を収めることができ、私達実行委員も嬉しい限りです。来年度は更に良い総文祭にできるよう頑張っていきたいと思っています。



令和3年度青少年赤十字スタディー・プログラム

群馬県立前橋商業高等学校 2年 坂本 怜央

12月25日と26日の2日間、オンラインにて全国のJRC部員との交流やさまざまな講師の方をお招きしての講演など青少年赤十字創設100周年直前には欠かせない充実した内容になりました。

1日目は、講義がメインで少しグループで話し合う機会がありました。少しですが「気づき、考え、実行する」を意識して行動できました。講義では2日間を有意義に過ごすためのリーダーとコミュニケーションやこれからの未来に役立つSDGsの知識として、キットカットのメーカー会社であるネスレさんが実際にやっていることや私たちでもできる身近なことなどアドバイスをいただくことが出来ました。

2日目は、フィールドワークを重視した全国の代表の方々との意見を交わすことのできる絶好の機会でした。フィールドワークではSNS、防災、国際理解の3テーマで話し合いをしました。防災では震災が起きたことを想定し、避難するために持つていくものを数分で判断することは困難であることが分かりました。危機感を持って行動することを意識していきたいです。また、全体発表・活動宣言では青少年赤十字のこれからのに向けて、自分にできることを考えることができました。スタディー・プログラムでの学びをこれからの生活に役立てていきたいです。



日本赤十字社群県支部では、メンバーの夏休みを利用して、赤十字や青少年赤十字に関する作文やポスターの作品募集を行っています。これは、各メンバーが青少年赤十字に関心を持ち、活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。なお、入賞者には賞状と副賞を、応募者全員に参加賞を差し上げています。毎年実施していますので、ぜひ皆さん応募してください。

青少年赤十字「作文」コンクール入賞者

小学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	みどり市立笠懸小学校	磯 朝笑	5	届け！おねえちゃんのランドセル
人道賞	館林市立第一小学校	針谷 陸	2	じいじとくくのなつ休み
	前橋市立永明小学校	岩本 真優	6	自分でみつかるボランティア活動
	館林市立第六小学校	加藤 凜咲	5	わたしができるボランティア活動
JRC 賞	伊勢崎市立北第二小学校	本間 心結	6	コロナ禍で思うこと
	みどり市立笠懸小学校	長島 蒼	6	僕にできる事

中学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	太田市立太田中学校	羽中田桜花	1	始めよう できることからすこしづつ
人道賞	太田市立太田中学校	金井ひなの	2	理想への第一歩
	太田市立太田中学校	飯田夏乃菜	2	見つけよう、今だからできるボランティア活動
	太田市立北の杜学園	新藤 美佑	3	ボランティアをして
JRC 賞	太田市立太田中学校	津久井陸徒	1	思いやりの心
	太田市立太田中学校	今井 陽菜	3	優しさの理由

高校生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	群馬県立高崎北高等学校	潮 香帆	1	今の私にできること
人道賞	群馬県立桐生高等学校	石川 実久	2	ひとつの力に
	群馬県立桐生高等学校	高草木優芽	2	未来のあなたへ
	群馬県立高崎東高等学校	野口 文汰	1	命の献血
JRC 賞	群馬県立桐生高等学校	金田侑梨愛	1	今自分にできること
	群馬県立高崎東高等学校	大海 心和	1	未来のあなたへ、やさしさを

学校奨励賞 受賞校（※学校奨励賞は応募総数、応募率等に基づいて決定しております。）

○小 学 校…伊勢崎市立北第二小学校、館林市立第二小学校、館林市立第六小学校、みどり市立笠懸小学校、明和町立明和東小学校

○中 学 校…前橋市立鎌倉中学校、伊勢崎市立蓮通中学校、太田市立太田中学校、太田市立北の杜学園、館林市立第二中学校、館林市立第四中学校

○高等学校…県立高崎東高等学校、県立高崎北高等学校、県立桐生高等学校、県立伊勢崎工業高等学校、学校法人大出学園支援学校 若葉高等学校

青少年赤十字「ポスター」コンクール入賞者

1st アンリー・デュナン賞（最優秀賞）



みどり市立
笠懸小学校
6年生
岩浦このみ



伊勢崎市立
第一中学校
3年生
福地 杏純

2nd 人道賞（優秀賞）



太田市立
北の杜学園
2年生
米山 莉子



明和町立
明和東小学校
5年生
天海 美祐



伊勢崎市立
第一中学校
1年生
大和 蒼志



伊勢崎市立
第一中学校
3年生
長谷川美麗



太田市立
太田高等学校
2年生
貞方未恵美



群馬県立
高崎東高等学校
2年生
原 野々華

3rd JRC賞（佳作）



高崎市立
八幡小学校
6年生
小林 理奈



高崎市立
八幡小学校
6年生
永井 琴七



太田市立
北の杜学園
7年生
(1年生)
岡崎 柚乃



伊勢崎市立
第一中学校
3年生
齋藤あかり



前橋市立
第七中学校
2年生
佐藤 侑奈



館林市立
第一小学校
6年生
菅谷 秋桜



前橋市立
鎌倉中学校
1年生
近野 彩夢



学校法人
大出学園
支援学校
若葉高等学校
1年生
土田穂乃香



学校法人
大出学園
支援学校
若葉高等学校
1年生
伊藤 彩姫



今年青少年赤十字は
100周年を迎えます